

題目 どうすればこれまで負担を引き受けてきた人々とこれから負担を引き受ける人々に  
思いを馳せられるのか？：除去土壌ゲームを用いた多元的共通善を巡る討議過程の検討

氏名 上村 真菜

指導教員 大沼 進

本研究では、社会全体で配分が必要な負の財に関する事例として除去土壌問題を取り上げ、除去土壌ゲーミングを用いて、社会全体のスティグマ化の解消や当事者の負担や不安の軽減に繋がるプロセスを検討した。このゲームは、利害当事者のみで処分地選定に関する議論を行う場面から市民諮問委員会によりスティグマ化をなくすための提案に至る場面までの段階的な合意形成プロセスを模している。除去土壌は現在福島県大熊町・双葉町で中間貯蔵されており、福島県外で最終処分する必要があるが、処分地の見通しは立っていない。この問題では、今まで中間貯蔵施設を受け入れてきた福島県に加え、新たに負担を引き受ける地域が生じる。一方、一般的な NIMBY 問題と異なり、負担を複数箇所で分担することが容易である。このような負担配分を巡る構造がある中では、分配的不公正の是正がより重要となる。さらに、受け入れ地域の住民の受容のためには、社会全体として受け入れ地域外からのスティグマ化を解消し、負担の押し付け合いという構造を変える必要がある。そのための一手法として、行政に諮問された一般市民が、受け入れ地域のアイデンティティや尊厳を高めるための提案をすることが重要性となる。以上を踏まえ、本研究では、1) 利害当事者のみによる議論の場における不公正の是正と、市民諮問委員会による議論の場における当事者の不安や負担、スティグマ化を解消する提案の可否との関連、及び、2) 視点取得に加え、役割へのコミットメントや共通善志向、実際に新たに負担を引き受ける人々やこれまで負担を引き受けてきた福島の人々への慮りが、不公正の是正や市民諮問委員会による議論の場での提案に与える影響について検討した。その結果、分配的不公正の是正がなされることが、単なる処分地選定に関する合意形成だけでなく、社会全体のスティグマ化の解消や当事者の負担や不安の軽減に繋がることを示唆した。また、辻本 (2024a) で示された、当事者の視点取得がスティグマ化及び当事者の不安軽減にポジティブな影響を与えることを再確認したことに加え、実際に福島の人々やこれから負担を引き受ける人々を慮って議論に参加することができるかどうかや、問題をどのように捉えるかが、不公正の是正や、当事者の負担や不安の軽減について考慮する上で重要な意義をもたらすことを示した。